

2022 年度第 3 四半期 WEB 決算説明会の主な質疑応答
(2023 年 5 月 12 日開催)

1. 3Q の売上総利益（率）が 2Q 比低下した（30.5%⇒29.7%）理由は？

A: 売上高減少（▲56 億円）の影響が大きい。

2. 年間営業利益が前回予想から▲65 億円減少した理由は？

A: 売上高減少（▲150 億円）の影響が大きい。

3. 部品長納期化は現状どのようになっているのか？どのように対応・改善しているのか？

A: 部品長納期化は改善してきている。

一部の長納期部品については、顧客との情報交換を基に、納入時期と部品リードタイムを考慮して、受注前に先行して部品手配を行うなど納期短縮に取組み成果が出ている。

半導体は、同一機種のリピートが多く、顧客のフォーキャストを事前に把握できるので、計画的な生産体制、部品の先行手配に取組むことがしやすく、顧客への納期は通常に戻っている。

FPD はもともと大型装置で納期が 12 か月程度だったこと、顧客工場に出荷後、長納期部品を後から据え付けるなどの対応によりリードタイムに大きな影響が無かった。

電子については、①半導体のように同一装置の拡販が可能な分野・装置と②顧客毎にカスタマイズ性が高い特型装置の 2 つに分かれる。

パワー半導体関連のイオン注入装置やスパッタリング装置などは、半導体と同様、計画的な生産体制・部品の先行手配に取組むことができた。

イオン注入装置等は、部品長納期化の問題に加え、サプライヤーの生産キャパが受注・売上の急激な成長に追いつかないという問題も抱えていたが、サプライヤーと生産体制を連携し生産量を確保している。

こうした取り組みの結果、イオン注入装置など計画的な生産体制・部品の先行手配等を行える装置の納期は短縮できるようになっている。

一方の特型装置についても徐々に長納期部品の範囲が限定されてきている。

競争力という観点では、競合も計画的な生産や先行手配を行うことが難しいことから、納期という点でのマイナスにはならない。

4. 3Q の FPD および半導体電子部品の受注高・売上高の用途別内訳は？

A: 別紙のとおり。

5. 3Q の営業利益率順位は？

A: 別紙のとおり。

6. 中国のパワーデバイス投資は活況を呈しているという話を聞く中、パワーデバイスが3Qから4Qに期ずれすると説明だが、投資マインドに変化があるのか？

A: パワーデバイス投資マインドは、中国・日本ともに引く続き強いと認識している。

7. バッテリーが4Qに期ずれしているが、通期の受注予想を前回引下げ、今回は上げているのは、ビジビリティが上がっているのか？

A: 3Qから4Qへの期ずれとなったが、前回予想で来期に投資延期となると見込んでいた案件の4Q受注の可能性が高まっており、量産投資が始動していると感じている。
来期以降は100億円以上の受注を見込んでいる。

**8. なぜ短期間でこのような更なる大幅下方修正となったのか？
2月時点で分かっていたのではないのか？いつ頃分かったのか？今後の見込みは？**

A: 2月の下方修正に加え、連続しての下方修正となったのは、受注の期ずれ（Q3からQ4）・投資延期等が重なったことによるが、受注の確からしさの確認が不十分であった点と考えている。

2月時点では、これ以上の下方修正は無いものと考えていたが、3月時点では、一部受注に関するリスク認識はあったが、一方でグループ一丸となり挽回策を模索しており、最終的には4月にこれほどのインパクトがあると確認した。受注の四半期の期ずれによる売上高に与える影響額が十分に精査できていなかった面もあり、社内管理体制を見直している。

受注残高が多く、今後の売上高は増加していく、また半導体電子の受注ウエイトが増加しており、ミックス改善により利益率が改善していくという成長戦略に変わりなく、今回の下方修正は一時的なものと認識している。

9. 2度にわたる下方修正に関して、内部的に問題は無かったのか？

A: 顧客の投資動向等を正確に把握できなかった面があると考えている。

また、2月に業績下方修正を発表する中で、グループ一丸となり受注増に対する取り組みを実施している中で、一部受注に対しては期待値で見込んでいた面がある。

すでに顧客とのコミュニケーション強化や確認・チェック体制の強化に取り組んでおり、7月からは組織変更により、更なる管理体制の強化も図っていく。

10. 来期の売上・利益を現段階でどのように考えているか？

A: 来期計画は8月にご説明するが、今期末の受注残高は1,500億円を超える見込みであり、今期受注見込みも2,500億円であり、部品長納期化への対応も進んできていることから、来期売上は昨年度実績2,413億円を少なくとも上回るものと考えている。

以上

別紙：品目別内訳割合・営業利益率順位

●受注高 品目別の内訳割合

| 受注高 | FY2022 Q3 |
|------------------|------------|
| 半導体電子（億円） | 138 |
| ・メモリ | 1割強 |
| ・ロジック | 約2割 |
| ・電子部品 | 3割強 |
| ・パワー半導体 | 約3割 |
| ・実装 | 一桁台半ば |
| ・その他 | - |
| FPD（億円） | 64 |
| ・LCD | 4割弱 |
| （大型向け割合） | （ほぼ大型向け） |
| ・OLED | 4割半ば |
| ・その他 | 2割弱 |

●売上高 品目別の内訳割合

| 売上高 | FY2022 Q3 |
|------------------|------------|
| 半導体電子（億円） | 176 |
| ・メモリ | 2割弱 |
| ・ロジック | 2割半ば |
| ・電子部品 | 約3割 |
| ・パワー半導体 | 2割半ば |
| ・実装 | 数% |
| ・その他 | - |
| FPD（億円） | 93 |
| ・LCD | 4割弱 |
| （大型向け割合） | （大型向け3割強） |
| ・OLED | 5割強 |
| ・その他 | 1割弱 |

●営業利益率順位 FY2022 Q3

| 順位 | 品目 |
|----|---------|
| 1 | コンポーネント |
| 2 | 半導体電子 |
| 3 | その他 |
| 4 | 一般産業 |
| 5 | 材料 |
| 6 | FPD |

全社平均利益率は
 3) その他と
 4) 一般産業との間